

◆新入園・進級への配慮と保育のシクミ

ピラミーデは子どもの入園や進級に特別配慮が払われます。その理由として、子どもの場の「移行」における不安感を軽減させるためです。母子間の分離不安よりも、家庭のシクミから保育園のシクミへの移行に、子どもは強い不安感を抱いていることが分かって来ました。登園時での、母親の子

どもに対する接し方よりも、保育の方法（シクミ）が重要なのです。すでに述べたように、乳児室の環境、登園時に保護者と一緒に遊ぶ時間等の工夫にくわえて、保育活動は多くの習慣と規則で成り立っていることを教えます。

●トイレの習慣

例えば、子どもが毎日使用するトイレ。トイレに行きたい子ども（2歳過ぎ）は、保育室の出口にかけられているビーズを首につけて行きます。先生は、今、何人の子どもがトイレに行っているかが分かります。トイレを終えて保育室に戻って来た時にビーズを元の場所にかけます。



〈上図のようなイラストを使って、先生は新入園や進級時期の子どもに説明します。〉

●保育室の規則

おもちゃの取り出しと元の場所に戻す習慣を身につけさせるために、おもちゃ棚にはそれぞれのおもちゃのイラストや写真が貼られています。



保育室の入り口には、今日のカレンダーが置かれています。部屋に入るとトイレに行くときに首にかけるビーズがあります。



子どもたちの入室を待っているようなサークルタイムが準備されています。



今日一日の保育活動がイラストで掲示されています。



〈画像はすべて、日本におけるピラミーデ導入園より〉